

南京防備第二線 全滅的崩壊に瀕す

(上海廿九日)廿九日午後三時半代軍は江陰縣城を完全な占領し各門を閉鎖する日軍旗が揚げられた。代軍は時移りて城内の掃蕩を行くと共に一部は敵の遺棄した陣地を包圍して江陰砲台攻撃の準備を完了し、午後五時五十分占領した。

江陰砲台占領

江陰砲台は新攻より制する長江唯一の関門として平河口の揚子江に、南京防備を強化し、砲台の上を前線砲臺として、前線には水上の艦隊を阻止し、敵の死命を奪うに準備が整えられた。

北支の政治経済金融産業 一踏著々回復の軌道を邁進

(北京廿九日)北支地方の復興は迅速なる進展の勢動と治維持會其他の努力の努力により、今や前線を一掃し各方面に多大の成果を挙げた。十一月末に於ける北支の政治経済金融産業各面の回復は、大抵その如く、その進歩の速さは、北支今後の発展の基盤を築き、復興の基となるものとして注目される。

交通

支那の復興、交通の回復が第一の要諦である。最近、北支の交通は、前線を一掃し、各方面に多大の成果を挙げた。十一月末に於ける北支の交通は、大抵その如く、その進歩の速さは、北支今後の発展の基盤を築き、復興の基となるものとして注目される。

金融通貨

支那の復興、金融の回復が第一の要諦である。最近、北支の金融は、前線を一掃し、各方面に多大の成果を挙げた。十一月末に於ける北支の金融は、大抵その如く、その進歩の速さは、北支今後の発展の基盤を築き、復興の基となるものとして注目される。

宣興・常州を占領

(上海廿九日)上海駐紮隊は、本隊は宣興を占領し、常州を占領し、各々完全な占領した。

宣興は、常州を占領し、各々完全な占領した。

六軍廣徳を猛撃中

(上海廿九日)長江より南進した六軍は、廣徳を猛撃中である。廣徳は、常州を占領し、各々完全な占領した。

廣徳は、常州を占領し、各々完全な占領した。

山東省諸陶占領

(石家莊廿九日)山東省諸陶は、各々完全な占領した。

山東省諸陶は、各々完全な占領した。

高福麟軍の掠奪暴行

(石家莊廿九日)河北省の高福麟軍は、掠奪暴行を行っており、各地に被害をもたらしている。

本東南で捕虜救出

(大原廿九日)本東南で捕虜救出が行われ、多くの捕虜が解放された。

上海海關接收に関し

駐日英米西國大使、廣田外相を訪問し、上海海關接收に関し、重要な話し合いが行われた。

宋子文派料近渡英?

(香港廿九日)宋子文派料は、近々渡英するものと噂されている。

茶葉製の支那飛行機

丁株船船内に発見された茶葉製の支那飛行機は、技術的に驚異を感ずるものである。

KEROGAS
ING. F. STUCKLER
U.T. 51-3252. PACHECO 3260

最新型ケマドール
タンクシステム
製造取費

各種ケマドール修繕、部分品と販売致します。日本人向け多数の顧客を有し、仕事は入念迅速、電話で御一報、次第早速お上致します。

敵の南京防衛戦畧

東は江陰常州、西南は廣徳に配陣

在避 (上海廿八日) 南京衛戍司令唐式遵は廿七日南京防衛戦畧を決定し、至急敵軍の侵入を防止するに共に南京防衛戦畧の中心は、如く言明する。

人の要 (南京防衛の第一) 大湖沿岸より蕪湖に向つて、敵軍の侵入を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

英艦出動 (上海廿八日) 英艦は、支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

大湖北岸の我の部隊 (上海廿七日) 大湖北岸に作戦中の我の部隊は、敵軍の侵入を防止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

空軍附近各地を襲撃 (上海廿七日) 空軍は、支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

大湖北岸の我の部隊 (上海廿七日) 大湖北岸に作戦中の我の部隊は、敵軍の侵入を防止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

大湖南岸の我の部隊 (上海廿七日) 大湖南岸に作戦中の我の部隊は、敵軍の侵入を防止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

大湖南岸の我の部隊

安徽省に突入 (上海廿七日) 安徽省に突入するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

蘇州府に突入 (上海廿七日) 蘇州府に突入するに、南京防衛の中心は、如く言明する。



蘇州府に突入 (上海廿七日) 蘇州府に突入するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

河南自治政府樹立式挙行 (鄭州廿七日) 河南自治政府樹立式挙行するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

河南自治政府樹立式挙行 (鄭州廿七日) 河南自治政府樹立式挙行するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

河南自治政府樹立式挙行

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

支那側烏龍山砲台附近を封鎖 (上海廿八日) 支那側は日本軍の進軍を阻止するに、南京防衛の中心は、如く言明する。

飽まで日本の態度を支持 日支紛争に因し側近者は洩らした ニ總統最近の感想

(伯林廿七日) 最も信頼すべき方面より情報によれば、ヒトラーは最近側近者には日支紛争に因する左の如き感想を洩らしたと云はれる、

「防共の線に沿って飽まで日本の態度を支持する」

「支那共産党を含む抗日勢力を過大評価せず、日本の團結力、精神力を過大評価する」

「國民政府は容共野分の誤れる政策を採用したから日本は問題の根本的解決を期して軍事行動を撤退せしめるべからうから蔣介石の没落は今や時間の問題である」

「従って独自の外交政策は日本の方針に副し兩檢討する」

シヤハト経済相退き ナチ経済遵奉者フンク之に代る

今国防共協定は今次の支那 物の交換を本位に伸進する計を 事変を不愉快にしてあること故に 方針が、伍壹使節の持へ れるシヤハト博士が経済相を 退きフンクが之に代った結果 整法充實は従来より容易に進 んど期待され、更に日支貿易 は経済貿易の領域に於ても 立するに日本と協方方針を確 定するに、おらう(安達) 愈々本格的に自給の軌道に乗 って来るものと見られる、殊 同盟特許買発)

英國の策動を排し猛省を促す 対英國國民大会また開かる

(東京廿七日) 英國の老練極まる 四午後一時半から対外國國民 盟主催で對英國國民大会が芝公 園広場で開かれた、定期前か ら既に進み、既に對英國民 大会は教壇開かれたが、更に一 片の葉無く暗水凍った二十七日

戦死者遺族の扶助は 政府当面の重大問題 恩給金庫法未議案提出

正面演壇の西側に立てられた 長嶽は秋風に靡り万雷の拍手 のうちに開演、先づ国歌合唱 官城逸井後三井島井長とし て席につき、議事に入り、我國の 聖戦に對する英國の策動を排 し重大なる決意を以て英國の 猛省を促す宣言文を朗読、英 國の對支援助放棄、英國の九 ケ國全議退脱による最正中立 英國の共産野分の絶縁要求 の三ヶ條を決議、並に軍費削減 激助進文を満場一致で可決し 頭山滿山、山本清二、小泉 又次郎、佐藤中將、安井少將 加藤大尉ら二十四名の各派有 志が次々起つて英國反省と打 倒の熱辯を振つた後、頭山滿 山の發言で万歳を三唱して大会 を終り午後五時閉會した

頻發するソ聯の不法行爲 我方覺書を以て嚴重抗議

(東京廿七日) 外務省は二十七日 在ソ聯大使館に對し、在 滿鐵帝國總領事館員の病氣に 對しソ聯醫師の往診拒否、その 他最近頻發するソ聯の非常 識極まる不法行爲に就き、覺 書を手交して注意を喚起する 之共に事態改善方を嚴重要請 した

東郷新駐独大使 独逸船で鹿島立つ

(神戸廿七日) 東郷新駐独大使は 独逸船で鹿島に立つ、二十七日午後二時神戸出帆の独 逸船ケナイセル号で各方面の歡 送隊は一路独逸に向つた、

CONSULTORIO MEDICO
DE
Dr. Cornejo Koster
y Dr. Herrera

治療卓効費用低廉
コステル内外科医院

コステル博士はラモスメヒア病院の医師、独 逸にて醫學を修めベルリンにて永年診察に 従事す

淋病、梅毒、皮膚病、胃腸、心臓、肺病、 腎臓、小兒科諸病診療に處します

ドクトルエレラセ
産婦人科専門医

AVENIDA DE MAYO 1334 1º piso D
L.T. 87 - 2235 (DR. 14 A 13 HORAS)

出征陸海軍將星夫人達の優しき企て 支那事変皇軍戦死者慰霊の 挙國的大法会、芝増上寺で営まる

(東京廿七日) 寺内閣外務省月 長谷川、大川、内閣出征陸海 軍將星夫人達の優しき 心遣りから企てられた支那事 變皇軍戦死者慰霊法會は、東 京府、帝都防空協会後援の下 に二十八日午後一時半から芝増 上寺で盛大に営まれた、この 日午前九時半京新智恵門跡 聖架の飛行機上から帝新は各 將星夫人の筆にまつた蓮の花 びら約十枚の空中参向を行 った大空から英靈を拜つた、 午後一時から各大臣、代理を始 めて各界の代表が参向した、 送隊は一路独逸に向つた、

敵艦相次ぐ 海軍機報國号

(東京廿七日) 大空の守りへ寄る 敵艦の赤城として今日海軍 省へ敵艦された海軍機報國号は 合計百四十六機に多き上つて 来るが、更に廿八日敵艦五機 の敵艦式が奉行される事になった

國民赤誠の結晶 陸軍兵器の名命式

(東京廿七日) 全國から陸軍に寄る られた國民赤誠の國内融全に就 いては、後述の如く、この種飛行 機十機、戦車五台、裝甲車廿二 台その他が出来上り、愈々廿 九日羽田飛行場でこれら敵艦 兵器の盛大な命名式が奉行さ れることになった、

本年度十ヶ月の亞國貿易

一九一九年以来の大出超

但し慎重対策を要する今後の動向

本年度十ヶ月の亞國貿易の概況は就いて統計局は週報を發表したがそれによれば、本年度十ヶ月の貿易総額は...

注目 出超額の増大は全額即ち七億四千万ペソに達する...

ラブレインサ紙は廿七日の社説に於て亞國に於ける住居改善及び住宅建設に關し一般の輿論の不快なるはロサリオと同様である...

住居改善に關する

ラブレインサ紙の社説

ラブレインサ紙は廿七日の社説に於て亞國に於ける住居改善及び住宅建設に關し一般の輿論の不快なるはロサリオと同様である...

日本の亞國羊毛買付に便宜を興ふべし

日亞通商協定締結を輿論支持

パタゴニアの農牧組合聯盟及び亞國物産同業組合は過日のラブレインサ紙及びラナシオン紙は何れも論説欄に於て右の羊毛輸出促進のため通商協定を請せられん事を要望、特に日本に關しては日本側が現在衆議院協定の締結によつて通商協定の締結によつて通商協定の便宜を計るべきことを要望してゐる。

ぎ程の事柄ではないが、世界市場に於ける農産品価格の急激な下落傾向を示さんとして、ある今日相手を警戒を要するところがあると思はれて居り、亞國對策として過去六ヶ月間の出超が世界的不況の亞國に及ぼしたる影響即ち世界市場の凋落下して居る。

Dancing Paris advertisement with text: 不景氣は終りました、御遊興は是非！

ポルコード核

武市で休翼

大西洋を夢の間に横断して巴里、南米、二日間の旅、華々しい、歐洲南米連絡のレコードを確立したポルコード核は、ラブレインサ紙の社説に於て十分の注意を武市に與へ、その成功を祝して居る。

CASA NAKASHIMA advertisement: CALLE GUTEMBERG 5994, U.T. 50-DEVOTO-2363, 中島商店

重工業方面への投資結構

総ゆる邦品の販路開拓を計る

〇... 滯留中の海外市場調査團の使命

既報の如く高工省派遣の海外市場調査團は、米、小麦、大豆、食油、紙、鉄鋼、銅、鉛、亜鉛、錫、石油、石炭、木材、皮革、繊維、陶器、磁器、ガラス、電機、化学工業品等、主要品目について、海外市場の調査、販路の開拓、主要国との交渉、主要品目について、海外市場の調査、販路の開拓、主要国との交渉、主要品目について、海外市場の調査、販路の開拓、主要国との交渉...

日庭の本年度総会並に賞品授與式

出席者百余名近末締まる盛會

日本庭球倶楽部定期総会は、定例の如く去る廿七日午後四時より同倶楽部にて五十余名出席の下に開催。飯野幹事の会務、安東会計の会計等、それら報告あり一同異議なく承認。次いで議事は入り役員側提案の「将来のなめり土地購入研究委員会設置」の件を議場一致可決。引続き役員選挙に入り南票の結果左の諸氏の当選を見た。

定期総会終了後八時より一同コートに集まり記念撮影をとり終つてランチの席に着き、片井氏より同倶楽部初まつて以来の多数出席をめでたに祝ひに右へ左への言葉を同会員の皆あつて本年度チャリメンション及び各春季トーナメント更にランキング各優勝者へ左記の如く賞品、賞品等の授與あり一同乾杯。それより百余名は上る会費は次からく、之運はれる日庭西園取りまぜた山ふす新館走まつまみながら冷いビール満ちひき、やがて

- 会長 三本重幹
- 主 将 横堀三四
- 役員 石川芳範 小川 勇
- 安東定夫 飯野幹事
- 勝田長三郎 龍波文夫
- 片井格次 望月豊吉

余り振はふかつた日会大運動会

一千米の覇者は森君、常勝の小津君三落つ

日会主催の例大運動会は、初年度の陽気にあふたが、去る廿八日朝からドクダミ雨の降りにあつた。森君は一千米の覇者となり、常勝の小津君は三落つた。八百メートル団体対抗リレー、洗洗組合は凱歌を奏した。

寺嶋代理公使夫妻の留別会催さる

既報、寺嶋代理公使夫妻主催の留別会は、去る廿七日午後五時より南園に催され、各方面の人士多数出席し、盛會に午後七時同会終了。

自轉車大賣出し

日本製の子供用及大人用自轉車が入荷致しました。同社の自轉車は特別割引致しますので、御希望の方は先切込みの御希望の方は先切込みです。地方へは直接発送の御便宜を取計ります。

安東商会

市内アローナ街五五〇。電話三三三三。電話三三三三。

山下汽船發着

山梨丸 九月廿八日日出帆
南滿丸 九月廿九日日出帆
山彦丸 九月三十日出帆

公使官邸移転

公使官邸は、今回五記に移転（二時）ウイニヤエウア一三三三。電話は七三〇八〇二。

Mr. Mason y la Guerra en el Oriente

El afamado escritor norteamericano, Mr. J. W. T. Mason, cuyas correspondencias en "La Prensa" son muy leídas, no ha mucho se ocupó de la declaración de la Liga de las Naciones, diciendo que el Japón no era agresor; sino la China que la provocó con toda premeditación, cometiendo actos violentos contra los pacíficos residentes japoneses en todo el territorio chino.

En la última correspondencia fechada en Londres, conmovido al parecer por las noticias dadas allí acerca de los ataques de aeroplanos contra la población civil de pueblos y ciudades en China que — dice — "ha hecho estremecer de terror a Europa", Mr. Mason defiende la política de Gran Bretaña, que "ha guiado el movimiento tratando de concentrar la presión moral de la opinión contra los aviadores atacantes".

Es verdad que Mr. Mason no menciona al Japón y dice en un párrafo que las bombas tiradas por los aviadores chinos han hecho mayor daño que cualquier otro bombardeo, pero no aclara la situación de los aviadores japoneses que en ningún caso han cometido lo que los chinos. Es conveniente, pues, dejar constancia de ese hecho muy importante para constatar la verdad.

Agrega, Mr. Mason, "que las potencias no han adoptado esta actitud de condenar los ataques de aeroplanos a causa de ningún afecto especial hacia los chinos, sino movido por el sentimentalismo humanitario". Nosotros agregamos que el sentimentalismo europeo es siempre parcial: ella no vio todo el mal que cometieron los chinos contra los japoneses, atrocidades, saqueos y matanzas en violación de los derechos de los japoneses adquiridos por los tratados y de los que les corresponden por derecho humano, porque le convenía ignorarlos, tratándose de perjudicar al Japón.

Es cosa probada que las fuerzas japonesas no han bombardeado, sino objetivos militares, y eso con previo aviso para que los civiles pudieran alejarse de los lugares peligrosos, cuando los chinos lo han hecho y lo hacen, no por equivocación como pretenden ahora, sino deliberadamente y muchas veces resguardados tras de un pabellón extranjero izado fraudulentamente por ellos.

Los juncos hundidos por los japoneses fueron utilizados para transportar soldados y armamentos y quieren hacer creer a los cándidos que los japoneses han echado a pique barcos de pescadores inocentes.

El escritor americano reconoce que el Japón fué la primera potencia que sugirió en 1922 sobre la conveniencia de definir los objetivos militares para los ataques aéreos, que las potencias no escucharon, pero no citó que el plan japonés de desarme fué el más real y práctico inspirado con sinceridad hacia el fin de la guerra, porque se trata de suprimir todo ataque, pero ninguna otra nación lo apoyó. Las otras naciones no tenían la intención de lo que decían; querían armarse ellas, evitando que otras sean más fuertes.

Por otra parte, si las potencias, y especialmen-

te Gran Bretaña, no obran por simpatía hacia la China, todo el mundo debe de saber que ellas lo hacen por interés, y nada más que interés material. Si fuera cierto lo que piensa Mr. Mason, la Europa humanitaria, ella debió alzar su voz y corregir la estraviada acción de los chinos que desde hace veinte años están violando toda clase de tratados, leyes humanitarias y moral internacional, fomentando odios al extranjero y cometiendo actos indecibles contra los pacíficos habitantes de otras naciones.

La culpa estaría en ese caso con Europa, que fomentó esa actitud china contra el Japón, provocando el estado actual que todos lamentamos.

También el célebre historiador italiano, Guillermo Ferrero, autor de "La Grandeza y Decadencia del Imperio Romano, que escribe en "La Nación", dice en su última correspondencia, que Europa está horrorizada por los ataques aéreos que destruyen pueblos y ciudades chinas. En Europa — dice — donde la guerra es una obsesión, la gente se pregunta con espanto cuál será la suerte de Roma, de París, Londres, Berlín, etc. en la guerra.

Este anciano sabio, como el escritor americano, no critica directamente al Japón o los japoneses, que no pueden, pero narran las cosas de tal modo que pueden ser interpretados como crítica al Japón, por ejemplo, Ferrero dice: "Esas matanzas son ordenadas, preparadas y ejecutadas en el Japón, como lo será mañana en Europa, por militares, oficiales y generales. Esos oficiales y generales no son monstruos; son hombres como ustedes y como yo; y si ustedes los conocieran en la vida privada, se sorprenderían muy a menudo ante su dulzura y humanidad."

Se ve, pues, que quieren criticar la guerra; pero al no aclarar bien la situación del Japón y la realidad de los hechos, queda mal parada la actitud japonesa que es justa y correcta ante la violencia y odiosa campaña inhumana de que ha sido objeto durante tantos años por parte de China.

Es por esto que es preciso hacer la campaña en todo el mundo para que conozcan la verdad, nada más que la verdad, de lo que pasó y está pasando en el Extremo Oriente.

EN OCASION DEL ANIVERSARIO DEL ACUERDO GERMANO-JAPONES

Tokio, noviembre 24. — El Ministro Hirota, dijo que: Generalmente los hechos diplomáticos provocan casi siempre la reacción. Ante este tratado se produjo el bloqueo llamado anti-fascista de los países democráticos o bien los ataques de los países que ya poseen contra la invasión de los que no poseen. Este tratado, vuelvo a repetirlo, no se dirige contra ningún país determinado y ya que se trata de una solidaridad ideológica se admite la participación de cualquier país que sostenga el mismo principio".

Tokio, noviembre 24. — El Ministro de Relaciones Exteriores al finalizar su discurso de hoy, pronunciado con motivo del primer aniversario del tratado anti-comunista, dijo: "Advierto ante todo que cualquier país puede entrar a formar parte de esta alianza, pero que no basta solamente obligarse a luchar contra el comunismo, sino que debe poseer también las suficientes fuerzas y voluntad para realizarlo."

El Gobierno Imperial no escatimó esfuerzos en los últimos años para inducir a China a formar parte del frente único contra el comunismo y su rechazo y el carácter de su política interna condujo al estado actual, lamentable en todo sentido.

Al celebrar el primer aniversario del tratado Japonés-Alemán, nosotros recordamos su verdadero significado y nuestra voluntad se hace cada vez más firme para alcanzar los objetivos que lo determinaron al contar con el apoyo pleno de la nación unida".

Berlín, noviembre 25. (United). — El embajador japonés, conde Mushakoji, ofreció una recepción para celebrar el reciente aniversario del pacto germano-nipón. Entre los asistentes a la recepción figuraban el ministro de agricultura, señor Darré, oficiales extranjeros, miembros de la embajada italiana y otras personalidades. Mushakoji, pronunció un discurso en el que elogió "el pacto tripartito que por primera vez permite llevar una sistemática lucha internacional contra el veneno destructivo del Comintern".

Darré, respondiéndole, declaró: "No necesito subrayar que el gobierno alemán apoya el pacto, sin reservas".

Roma, noviembre 25. (United). — Con motivo de cumplirse el primer aniversario de la firma del pacto anticomunista germano-japonés, las personas residentes en las vecindades de la embajada del Japón en esta capital realizaron una manifestación frente a la misma.

Los manifestantes vitorearon al Japón, viéndose obligado el embajador a salir al balcón para agradecer la demostración.

Aprovechándose de la presencia en esta capital del enviado japonés, barón Okura, el ministro de relaciones exteriores, conde Ciano, le ofreció un almuerzo en su residencia.

EL AMOR DE LAS FLORES

Los japoneses aman todas las flores. Pero si uno de ellos pronuncia la palabra "Hana" — pronunciase jana) —, que significa flor, suele designar con ella únicamente la flor del cerezo.

Esta flor, efectivamente, compendia el código del Bushi o Samurai, que antes cae que sufrir el menor deshonor, como la flor del cerezo se deshoja antes de que sus pétalos se marchiten. Y nuestro país se siente orgulloso por unir en una veneración común la delicada flor y la noble espada, que se considera como el alma del Samurai.

El japonés admira por doquier el cerezo; pero le encuentra un encanto más sorprendente cuando, bajando en barca por el curso de un río, descúbrelo sus miradas junto al agua o entre verdes pinos, entre laderas de una montaña. También es muy sensible a la gracia del cerezo, que de lejos parece una nube vaporosa por su blancura y ligereza y que de cerca semeja el copo de la nieve. El japonés se conmueve al ver la flor de los cerezos, de noche, alumbradas por los únicos rayos tímidos de una luna velada. La efímera florescencia de los cerezos es motivo de grandes regocijos; los padres con sus hijos, todo en familia, salen a contemplarlas.

Aún en los barrios más pobres de Tokio no hay casa, por modesta que sea, que no se adorne con vasos de flores, colocados en el borde de la ventana o cerca de la puerta, porque sienten la necesidad de tenerlas para alegrar su corazón.

Los budistas japoneses honran a sus muertos con ofrendas de hermosas flores. En cambio, los shintoístas, rinden culto a los antepasados con la ofrenda del "sakaki", arbusto sin flor, pero de verdor perpetuo.

Según ciertas poesías antiguas, parece que nuestros abuelos ofrecían también flores a los dioses shintos. Sí, posteriormente, adoptaron las hojas de sakuki hubo de ser, sin duda, para distinguirse de los budistas.

F. W.

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR

RADIO
EXCELSIOR

PAGINA DE ACTUALIDADES

FUERON PROCLAMADOS LOS DOCTORES ORTIZ Y CASTILLO, FUTURO PRESIDENTE Y VICE DE LA NACION

El Congreso de la Nación, aprobó en la Asamblea realizada el 25 del corriente la elección presidencial de septiembre último, y proclamó presidente de la Nación Argentina por el término de seis años desde el 20 de febrero de 1938, al ciudadano Don Roberto M. Ortiz; Vicepresidente, D. Ramón S. Castillo.

"El Argentin DjiJo" presenta sus respetos a los futuros mandatarios de la República.

MISION JAPONESA

Hoy llegará a bordo del Montevideo Marú, la Misión Comercial del Japón, que deberá estudiar las condiciones de este mercado.

AUMENTA LA EXPORTACION CHILENA AL JAPON

Como consecuencia de la visita al Japón de la misión comercial chilena que estuvo allí al principio de este año, y del nuevo acuerdo concertado después, la exportación de Chile, ha aumentado notablemente.

Anuncian de Valparaíso que salen de allí grandes cargamentos de minerales con destino a Yokohama.

LAS FUERZAS JAPONESAS SE ACERCAN A NANKIN

Shanghai, noviembre 25. — Las tropas japonesas vencieron la última resistencia china en el oeste de Shanghai, acercándose a las primeras defensas de Nankín.

CRUZADA JAPONESA CONTRA EL BOLCHEVIQUISMO

Tokio, noviembre 24. (Domei). — El contraalmirante Sanjiro Yamamoto, en representación de los católicos japoneses se trasladará al Vaticano y a varios países de Europa para hacer un llamamiento a los 300.000.000 de católicos del mundo entero, pidiéndoles que se unan a la cruzada del Japón contra las infiltraciones bolcheviquistas.

LA CONFERENCIA DE BRUSELAS LEVANTO LA SESION "SINE DIE"

Bruselas, Noviembre 24. (Havas). — La conferencia de las Nueve Potencias levantó la sesión, por término indefinido, a las 17,40.

ANIVERSARIO DEL ACUERDO GERMANO-JAPONES

Tokio, noviembre 24. — Mañana 25, con motivo del primer aniversario de la firma del acuerdo Germano-Japonés de defensa contra el bolcheviquismo será celebrado oficial y públicamente.

¡Beba buen café!

EL CAFE DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 ojo de azúcar brillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se expenden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFE DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

El primer ministro ofrecerá un banquete en su residencia oficial a los embajadores de Alemania y de Italia, país hace pocos días se adhirió al pacto mencionado, y a la tarde se celebrará una manifestación popular en el parque Korakuyen de esta capital.

ARMAMENTOS EXTRANJEROS, EN CHINA

Hongkong, noviembre 24. — Continúan entrando a China a través de Hongkong numerosos armamentos de fabricación inglesa, consistentes en automóviles blindados de la casa Vicars, centenas de toneladas de balas de cañón, granadas de mano y otros equipos militares. Hace dos o tres días llegaron también en poder de los chinos 12 toneladas de gases tóxicos, habiendo sido comprobado también que fueron de fabricación inglesa las balas dum-dum, de cuyo uso pretendieron, los diarios ingleses, responsabilizar a los japoneses. Estos hechos tan inhumanos que cometen los ingleses, que hablan tanto por la humanidad, indignan al pueblo japonés, que odia a la hipocresía.

Tokio, noviembre 24. (Domei). — Según informaciones de fuente dídigna, han llegado recientemente 160 aeroplanos rusos a Si-an, con los cuales los chinos están ejercitándose, esperando salir con ellos al frente en breve.

El día 21, llegaron a Hongkong 60 aeroplanos ingleses, también para el ejército chino, que serán pasados de allí inmediatamente.

AYUDA BRITANICA A CHINA

Nueva York, noviembre 24. — El conocido periodista neoyorquino, señor Miler, en un comentario aparecido hoy manifiesta que algunos chinos ambiciosos que contaron con el apoyo británico trataron de derrotar al Mariscal Chang-Kai-Shek y que esta ayuda británica, que se hizo efectiva desde el comienzo del conflicto chino-nipón, estaba destinada, lo mismo que la prestada a los leales en España a obtener ventajas de carácter económico.

VALOR MORAL DEL SOLDADO JAPONES

Berlín, noviembre 24. — El diario "Angliff" en su edición de hoy dice: "Cuando la guerra moderna se hace con tanques, aviones y otros elementos que la mecánica y la química han elaborado para la destrucción pareciendo dominar toda la escena guerrera, en medio, de ella, se destaca en forma imponente el valor moral del soldado japonés.

Esta es la verdadera fuerza que acciona sobre los elementos y suministrándoles su espíritu hacen del ejército nipón invencible ante cualquier obstáculo.

AVIADORES RUSOS EN ACCION

Nueva York, noviembre 25. — Los fotógrafos de la Paramount News, que acaban de regresar de Nankín, después de un viaje de tres semanas por la zona de Shansi y Shanhsien, han manifestado que se han visto muchos aviones rusos los que son manejados por aviadores de la misma nacionalidad.

Shanghai, noviembre 24. — Siansfu se ha convertido en la base aérea más importante de China. La escuela de aviación está dirigida por oficiales rusos que están preparando actualmente a 200 aviadores chinos.

SE CONSTITUYO, EN LIMA EL INSTITUTO CULTURAL PERUANO-JAPONES

Informaciones del Perú, traen la noticia de la constitución en Lima de un centro cultural denominado: Instituto Cultural Peruano-Japonés.

La nueva institución fué inaugurada el día 3 de noviembre en presencia del Encargado de Negocios del Japón, autoridades del gobierno del Perú, numerosos caballeros peruanos y nipones.

Preside la Institución el señor Manuel Elías Bonmaison.

Dr. TERAJIMA ESTUVO EN MONTEVIDEO

El Encargado de Negocios del Japón, Dr. Hirobumi Terajima, estuvo en Montevideo, para despedirse del Ministro de Relaciones Exteriores del Uruguay, con motivo de su próximo viaje.

DESTRUYERON UNA FABRICA DE GASES VENENOSOS

Tiensing, noviembre 25. — Un avión japonés atacó la fábrica de armamentos de Shanhsien del F. C. Lung Hai, destruyéndola totalmente.

En este establecimiento se fabricaba gases venenosos.

ENVIADO EXTRAORDINARIO DEL JAPON EN LONDRES

Londres, noviembre 24. — En la visita que el señor Hatoyama, enviado Extraordinario del Japón, hizo en compañía del Embajador Yoshida al Ministro de Relaciones Exteriores, señor Eden, este expresó su pesar por la manifestación anti-británica, realizada en el Parque Hibiya de Tokio, el señor Hatoyama atribuyó esos desahogos populares al convencimiento que existe en la opinión pública de que los residentes británicos fomentaban la lucha actual y que comprensivo como es el pueblo japonés variará sus sentimientos actuales hacia Gran Bretaña, si esta modificase su actitud manifestando estar dispuesta a comprender las causas de la actitud punitiva del Japón en China y prestase su colaboración para asegurar el orden y la paz en el Extremo Oriente.

En la visita que el señor Hatoyama, enviado especial del Japón, hizo al Primer Ministro Chamberlain, le expresó los puntos de vista del conflicto chino-japonés, vistos desde Tokio y desde Shanghai.

En el curso de la conversación que se prolongó por espacio de una hora le significó que el Comandante de la Tercera División Naval Japonesa, señor Hasegawa, hizo cuanto estuvo para que los males de la lucha afectase en lo mínimo a Shanghai.

Tanto Eden como Chamberlain, se mostraron comprensivos a las manifestaciones del delegado japonés.

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



Luz Clara - Terminación Prolija - Selección Especial

USE LAMPARA "YAMADA"

En venta en las buenas casas del ramo

Escuelas Profesionales en el Japón

Por SOICHI OKABE

Propalada por L. R. A., Radio del Estado

Accediendo a la amable invitación del Instituto Cultural Argentino-Japonés, me es sumamente grato ocupar este micrófono para hablar suscitadamente acerca de las escuelas profesionales en el Japón.

La orientación profesional de la juventud es uno de los problemas primordiales en todos los países del mundo. Si la juventud no ha recibido una instrucción adecuada en las escuelas, no podrá hacer frente a la lucha por la vida, no podrá hacerse cargo del porvenir de la nación y no podrá contribuir al progreso y a la prosperidad de la humanidad.

La crisis de intelectuales que prevalece en los países civilizados ha provenido, a mi juicio, principalmente, de la equívoca orientación profesional dada en las escuelas superiores, esto es, que algunos intelectuales no están dotados de las condiciones necesarias para luchar en la vida práctica por más eruditos y cultos que ellos sean.

Este problema que nos ocupa constituye en el Japón una preocupación primordial para los gobernantes y para el pueblo. En efecto, tanto las autoridades nacionales, provinciales y comunales como los educacionistas particulares prestan, desde hace más o menos treinta años atrás, singular atención sobre la orientación profesional de la juventud, estableciendo numerosas escuelas en todos los ámbitos del territorio japonés. Todos estos esfuerzos realizados en pro de esa obra importante se han visto coronados por pleno éxito y puedo asegurar que en cuanto se refiere a la educación profesional, el Japón no tiene, hoy en día, nada que envidiar a las naciones europeas o americanas más civilizadas y progresistas.

La educación profesional en el Imperio puede clasificarse en tres categorías, auxiliar, secundaria y superior. Una vez que el niño concluya los 6 años de la instrucción primaria que es estrictamente obligatoria, se inicia la enseñanza auxiliar que dura por espacio de dos años y en la cual se obtienen nociones de comercio, industria o agronomía apropiadas a cada región. La secundaria es destinada a aquellos niños que quieren obtener conocimientos profesionales más amplios. En las escuelas de esta categoría se estudia por el término de 4 ó 5 años y sus egresados prestan servicios importantes al comercio e industria.

La categoría superior es peculiar y muy desarrollada en el Japón, a la par de la enseñanza universitaria propiamente dicha. En los establecimientos de esta categoría se admiten únicamente los egresados de liceos o de escuelas profesionales que acabo de citar anteriormente. El estudio en ellos es de 3 a 4 años de duración y la instrucción que se da, es, por decirlo así, intensiva del programa universitario, pero en forma más práctica, por lo tanto, los alumnos deben asistir obligatoriamente a clase 5 ó 6 horas diarias. Los egresados de estas escuelas superiores, aunque no ostentan el título universitario de "gakushi" o doctor, constituyen elementos realmente eficaces para la industria y comercio del Japón, cuyo extraordinario desarrollo se debe considerablemente al aporte profesional de ellos.

A continuación, demostraré el desarrollo de la educación profesional del Japón con algunas cifras. Según las estadísticas oficiales del año 1934, existen 15.140 escuelas profesionales de la categoría auxiliar con 21.951 profesores y 1.271.530 alumnos. En cuanto a la categoría secundaria existen 839 establecimientos cuyos estudios tienen una duración de 5 años con 14.323 profesores y 276.982 alumnos; y además 202 establecimientos de la misma categoría, pero con un término de estudios de 4 años, con 1.834 profesores y 39.864 alumnos. Entre estas escuelas las hay de comercio, de industria, de agronomía, de marina mercante, de pesca, de artes aplicadas, etc.

Con respecto a la categoría superior, existen 54 establecimientos de los cuales 45 pertenecen al Estado. El número de profesores y alumnos asciende a 2.146 y 23.082 respectivamente. Las

escuelas superiores del Estado se dividen en 18 politécnicas, 12 agrícolas, 11 comerciales, 2 de marina mercante y 2 de pesca. También existen en Corea 1 escuela comercial, 1 politécnica, 1 agrícola y 4 de medicina; y en Formosa 1 comercial y 1 industrial. Además de las escuelas superiores profesionales propiamente dichas, hay 14 establecimientos de altos estudios que pertenecen al Estado y que son: 2 de lenguas vivas, 1 de bellas artes, 1 conservatorio de música y 10 de medicina, de farmacia, etc.

Como he dicho anteriormente, estas escuelas superiores han obtenido un gran éxito en el Japón debido a su eficiencia profesional y a la duración de estudios relativamente corta.

Por último, debo decir también que hay en el Japón propio 45 Universidades de las cuales 18 son del Estado, 2 provinciales y 25 particulares. El número total de profesores y alumnos es de 7.700 y 91.000 respectivamente.

Los doctores en derecho, ciencias económicas, ingeniería, agronomía, etc. recién diplomados prefieren generalmente el empleo en grandes empresas industriales o comerciales a la profesión libre por cuanto ésta ha cesado, desde mucho tiempo atrás, de ser lucrativa debido a la intensa competencia. Ellos aceptan cargos como empleados o técnicos subalternados y se dedican en general a los trabajos rutinarios de oficinas, de laboratorios o de usinas, pero si demuestran en sus cargos capacidad e inteligencia, podrán ocupar, al cabo de 10 ó 15 años de servicios puestos de importancia e incluso llegar a formar parte del directorio.

Como podrán darse cuenta fácilmente por lo que acabo de exponer, la orientación profesional de los diplomados universitarios en el Japón, es distinta a la de los de la Argentina donde todavía la profesión libre es de preferencia general. Sin embargo, no dudo de que en un futuro no muy lejano, los universitarios argentinos se dedicarán también en forma más intensa a las actividades comerciales e industriales y a la explotación de la inmensa riqueza natural de este suelo fecundo y contribuirán así eficazmente al engrandecimiento de esta gran República.

Antes de terminar mi breve exposición quiero hacer notar que casi todos los alumnos que egresan de las escuelas profesionales de distintas categorías encuentran ocupación con relativa facilidad, ya en la administración nacional, provincial o comunal, ya en la industria o comercio desarrollados últimamente en forma extraordinaria, a tal punto que en el Japón no existe prácticamente la desocupación o crisis entre esos profesionales aún en épocas de depresión económica.

INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONÉS

Nueva Comisión Directiva

En la Asamblea General Ordinaria, que se realizó el 23 del corriente, en la que se renovó la mitad de los miembros de la Comisión Directiva, quedó establecida la siguiente composición de las autoridades del Instituto Cultural Argentino-Japonés, para el próximo ejercicio, 1937-1938.

Presidente, Almirante M. Domecq García; Vice-presidente, Almirante Pedro S. Casal; Secretarios, Señores Julio Venavides y G. Yoshio Shinya; Tesorero, Sr. Jacinto Baldassarre Torres; Vocales: General Alonso Baldrich, Dr. José O. Casas, Dr. Eduardo Crespo, Dr. G. Garbarini Islas, Sr. Carlos C. Ishiy, Sr. S. Mimoto, Sr. Yonehei Nakamura, Dr. A. Pugnalin, Dr. Angel H. Roffo, Ing. Domingo Selva, Sres. S. Takachi y K. Yokohama; Suplentes: Sres. José O. Boggiano, Jorge Guerrero, Y. Ishikawa, Isamu Ogawa y Kanzo Ohno.

La Asamblea formuló un voto de agradecimiento al ex-ministro del Japón, Dr. Jiro Yamasaki, por sus valiosos apoyos prestados a favor del desarrollo del Instituto, nombrándolo Miembro Honorario del mismo.

SOBRE EL INTERCAMBIO CULTURAL

Ha existido siempre un intercambio entre los pueblos, si bien muy limitado en los tiempos pasados por razones varias, especialmente etnográficas y falta absoluta de conocimientos, pero el progreso general y sobre todo el adelanto en las comunicaciones, que facilitan el intercambio social, dió un impulso mayor para intensificar las relaciones entre los diversos países, enriqueciéndolos material y espiritualmente. La naturaleza social del hombre, las características geográficas de la tierra y la sabia distribución de los recursos naturales que difieren según la situación geográfica, indican que deben intensificarse los vínculos entre todos los pueblos de la tierra.

El canje de productos fué, por supuesto, lo primero que prosperó y generalizó desde los tiempos más remotos, porque ello fué y es vital para su existencia misma, especialmente cuando los hombres tienen miras de mejorar sus condiciones de vida.

Pero, ni en la antigüedad, el intercambio se limitó al tráfico de mercaderías. Grecia aprendió en el Oriente, muchas de sus sabidurías; Roma, que superó en el arte de gobernar y en la pericia militar, tuvo por fuente espiritual de su civilización, a la Grecia, que fué su maestra.

En los tiempos modernos, el Japón, cuya evolución admiramos, calificándola de maravillosa, es el resultado también de la aplicación de aquellos principios. El Emperador Meiji, organizador del Japón moderno, inspiró, que era menester adquirir conocimientos profundos de todas las ramas del saber humano, de todos los pueblos a fin de modificar y mejorar las condiciones generales de la nación con vistas al progreso.

En cuanto a nosotros, el conocimiento del Japón trae aparejado el conocimiento de China y de los demás países del Oriente. Por ello existe la conveniencia de intensificar los intercambios culturales y de turismo entre Japón y los demás países de Occidente. De ahí la necesidad, más que la conveniencia de hacer cualquier sacrificio en obsequio de ese propósito y de esa finalidad.

Es con ese fin que el Instituto Internacional de Estudiantes de Tokio, acaba de poner a disposición del Instituto Cultural Argentino-Japonés, dos becas para que puedan ser disfrutadas por universitarios argentinos que deseen trasladarse al Japón y permanecer allí dos o tres años, a fin de hacer todo un curso de extensión universitaria y profesional; una de cultura japonesa y la otra de ciencias.

La Comisión Nacional de Cultura creada por el Gobierno de la Nación es una de las manifestaciones de la actividad intelectual y cultural de nuestro país. Esta organización cuenta con la subvención nacional anual de 120.000 pesos destinados para ser invertidos en becas.

Es de desear que las autoridades de dicha institución, consideren la conveniencia de extender su radio de acción hacia el Oriente, especialmente al Japón.

Jacinto Baldassarre Torres.

EDIFICIO PROPIO DEL MUSEO SOCIAL ARGENTINO

El martes 30 del corriente a las 18 horas se colocará la piedra fundamental del Edificio Propio del Museo Social Argentino, sobre el terreno que le donara la Municipalidad en la calle Corrientes entre Callao y Rodríguez Peña, para cuya construcción ha dado el Gobierno de la Nación, la subvención de 200.000 pesos.

En el 8.º piso del edificio del Museo Social, tendrá su seno el Instituto Cultural Argentino-Japonés.

Los socios de ésta están invitados a concurrir al acto al que asistirá el presidente de la Nación.

COMERCIO ARGENTINO-JAPONÉS

En los primeros 10 meses del año, el comercio Argentino-Japonés, según datos oficiales argentinos fué: Importación, 39.664.000 y exportación, 21.171.000 pesos.

El Incidente del Norte de China

1937

EXPLICADO EN UN FOLLETO PUBLICADO POR LA ASOCIACION DE RELACIONES EXTERIORES DEL JAPON

(Continuación).

Esto no significó la guerra. Los jefes del Gobierno Japonés, están todavía persiguiendo el fin que han tenido en vista desde el disparo inicial y están luchando persistentemente para lograr un arreglo rápido y local del incidente de China del Norte, el cual es un asunto puramente

local. Y si sus serios esfuerzos fracasan, y un mayor conflicto se hace inevitable, la opinión mundial admitirá que la responsabilidad no será suya.

DECLARACION DE SIR AUSTEN CHAMBERLAIN EN LA CAMARA DE LOS COMUNES, EL 30 DE MARZO DE 1927

Yo estoy en condiciones de suplementar mi declaración del otro día, por hechos derivados en parte, directamente de fuentes británicas, y, en parte, de información suministrada al Ministerio

de su Majestad en Peking, por representantes americanos y japoneses. El saqueo fué efectuado por soldados en uniforme, que pertenecían a formaciones bajo el mando del general Cheng Chien. ... Mujeres extranjeras, incluyendo a la señora Giles, la esposa del cónsul general de Su Majestad, fueron completamente revisadas y rudamente despojadas de sus objetos de valor. Muchas, quedaron, con los vestidos desgarrados, y dos mujeres americanas fueron salvadas de tentativas de violación. Estos hechos se pueden establecer por testimonios bajo juramento...

DECLARACION BAJO JURAMENTO DE LA Sra. GILES, LA ESPOSA DEL CONSUL GENERAL BRITANICO EN NANKIN, PUBLICADA COMO UN LIBRO DEL MINISTERIO DE RELACIONES EXTERIORES BRITANICO (30 DE MARZO DE 1927)

...Tres soldados inmediatamente me agarraron, arracaron los anillos de mis dedos, infligiendo considerable dolor, y arrebataron el prendedor de mi vestido y la cadena del cuello, también el reloj y el brazalete de la muñeca. Sacaron los zapatos de mis pies y palparon para ver si había algo en mis medias. Maltrataron con gran brutalidad. La señora Robert, y la señorita Blake fueron tratadas en la misma forma... Una vez, varios hombres entraron con la espada del verdugo, y la sostenían a una pulgada de la garganta de mi marido. Otro hombre blandió un cuchillo de trinchar. Otros, trataron de arrancar los vestidos de mí, y de otras damas en la reunión...

A P E N D I C E S

LAS FUERZAS CHINAS EN LA PROVINCIA HOPEI ANTES Y DESPUES DEL INCIDENTE (AL 21 DE JULIO)

	Antes del incidente	Ahora	Aumento
El Ejército Central (bajo el control de Chiang Kai Shek)	Ejér. Liu Chih	0	17.000
	Ejér. Li Moan		17.000
El Ejército Central (bajo centro indirecto)	Ejé. Shang Chen	7.000	58.000
	Ejér. Pinghsun		51.000
Ejércitos locales	Ej. Sun Cheyuan	57.000	59.000
	Ejér. Wan Fulin	16.000	16.000
	Ej. Fen Chanhai	15.000	15.000
TOTAL	95.000	165.000	70.000

FIN

<p>"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegramas "NAMBEI" U. T. (33) 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904 SARMIENTO 470 BUENOS AIRES</p>	<p>T. NISHIZAWA Representante de Mitsubishi Sheji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 33-5469</p>	<p>F. KANEMATSU y Cía. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824</p>	<p>S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 33 Avda. 5744</p>
<p>H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintería HERRERA 2067 y 2111 - U. T. 21-1841</p>	<p>S. YAMADA y Cía. Importadores MORENO 2839 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4465</p>	<p>PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SAENZ PEÑA 989 U. T. 35-7692 8.º piso Oficina D</p>	<p>LA MAISON SATUMA K. YOKOHAMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 31-8601 Suursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4837</p>
<p>SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3219</p>	<p>IIDA y Cía. Ltda. (Takahimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-3419</p>	<p>M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 285 - U. T. 33-2683</p>	<p>G. KATO (C. YUASA) Representante de KATO BUSAN KAISHIA Ltd. Av. Roque Sáenz Peña 825 U. T. 35-5696</p>
<p>KATSUDA y Cía. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2816</p>	<p>R. HARA y Cía. Importadores BELGRANO 1478 U. T. Mayo 38-2438 y 8407</p>	<p>S. ANDO y Cía. Importadores DEFENSA 532-40 U. T. 38 (Av.) 2296</p>	<p>Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452</p>
<p>B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 738 - U. T. Mayo 38-3413</p>	<p>CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Barr. MITRE 341 - U. T. 38 Avda. 8762</p>	<p>JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718</p>	<p>GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. - U. T. 31-3193. CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193. CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. - U. T. 35-1462. INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.</p>
<p>I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1051</p>	<p>S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cía. CANGALLO 469 3er. Piso Esq. N.º 21-22 - U. T. 38-9390</p>	<p>Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846</p>	<p>ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. - U. T. 23-4893. COMPARIA DE VAPORES O. S. K.: ROQUE S. PEÑA 616 - 2.º Piso U. T. 33-1051 - 1052 - 1053 y 3565</p>
<p>N. IKEDA The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 38 - 4081</p>	<p>TARO MURAI Unica Casa Introdutora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 466 - U. T. Retiro 24-8160</p>	<p>K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1697 - U. T. 33-7769</p>	